

令和7年度第4回印西市立図書館協議会会議録 要旨

- 1 開催日時 令和8年3月12日（木）
午前10時00分から正午
- 2 開催場所 印西市文化ホール 2階 大会議室
- 3 出席委員 黒澤委員長、大和副委員長、飯尾委員、和田（亜）委員、中嶋委員、石ヶ谷委員、関口委員、樋口委員、久門委員、和田（剛）委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 秋山大森図書館長、根本大森図書館副館長、伊藤主査、寺嶋主査、岩井主査
- 6 傍聴者 4名
- 7 会議内容 (1) 令和7年度事業の経過報告
(2) 令和8年度印西市立図書館運営方針(案)及び事業計画(案)
(3) 印西市こども読書活動推進計画(第五次)の
策定(案)について
(4) その他

会議要旨（要点筆記）

【会議録作成のための録音機材の設置と会議公開に伴う傍聴席の設置の了解、会議成立の報告】

【館長あいさつ】

【委員長あいさつ】

〈議長〉 それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただく。
会議の円滑な進行に協力をお願いしたい。

【会議録署名委員の指名】

〈議長〉 はじめに、本日の会議録署名委員の指名を行う。
今回は樋口委員を指名させていただく。

【議事】

(1) 令和7年度事業の経過報告

〈議長〉 議事(1) 令和7年度事業の経過報告について事務局より説明をお願いしたい。

- 〈事務局〉 (令和7年度事業の経過報告について説明)
- 〈議長〉 今年度事業の中間報告ということで、これに対して何か質疑があったら、皆さんの方からお願いしたい。
- 〈委員〉 去年の事業計画の中にブックスタートが出ていたが、今回の報告にブックスタートが出ていない。行われているのか。
- 〈事務局〉 ブックスタートは子育て支援課で行っている。児童館の方で4か月児のこどもと保護者を対象に行っている。
予定表は図書館のホームページにも出しているが、やり方が変わり、読み聞かせを行っている児童館等で渡している。今後のやり方については子育て支援課の方でも検討をしているようなので、相談を受けながら、来年度のやり方が分かったところで、皆様に報告させていただきたいと思う。参加人数などはこの時期では分からないので、また年度が替わったら報告をさせていただきたいと思う。
- 〈委員〉 ブックスタートは司書が出向いて読み聞かせをすると聞いていたが、読み聞かせをすることがなくなって、子育て支援課の人が読み聞かせすることになったのか。
- 〈事務局〉 会場ではボランティアの方が読み聞かせをしていると聞いている。
- 〈委員〉 クリスマス会の人気が非常にあったようだが、『としょかんつうしん』を見ると当日先着順や事前予約となっている。報告資料の3ページを見ると、小倉台図書館の場合10組20人のところ12組24人が参加をしていて、4ページ小林図書館をみると定員50人のところ67人が参加となっているが、先着順ではなく行っているのか。実際はキャパがもっと増やせるものなのか、どのように行っているのか教えていただきたい。
- 〈事務局〉 参加人数については、防災上の問題で部屋の定員が定まっている。上限の人数より増えているのは、当日余裕があるようであれば、入れている。

小倉台図書館については、大体1組2人で計算し10組20人としているが、親子などになると1組で3人4人ということもあるので参加人数が増えたりする。今回について2組増えている件については、入れ替えがあったからだと思う。

〈議長〉 他に何か。

〈委員〉 4ページの学校関係、スクール便事業について伺いたい。ここに書かれていることだけではざっくり過ぎて、実際の実態や仕組みがよくわからないので、どういう仕組みになっているのか、もう少し詳しく伺いたい。
身近なところでは小倉台図書館を良く使う。集会室に青いコンテナがほぼ常時置いてある状態だが、あれがスクール便なのか。それらは読み物として、図書館が選書して学校に届けているのか、それとも授業に使う資料として、選書して学校に届けているのか。学校の誰かが要請して届いた資料を管理しているのか、どのように活用しているのか気になった。詳しい説明をしていただきたい。

〈事務局〉 スクール便について小学校でのセットは、1、2学年で1箱、3、4学年で1箱、5、6学年で1箱というものを1セットとして、参加学校数プラス予備分のセットを作っている。そのセットの配送を年に3回、2コースに分けて行っている。図書館職員が本を選定し、例えば5月に、A B C D... と作ったセットをそれぞれの学校に送っている。
9月になり、大森小学校にあったAのセットを次の木下小学校へ送る。木下小学校にあったBのセットは、次の小林小学校へ送る。そのように順繰りに送っていき、最後の3月に回収をし、一度それらをバラす作業をしている。そのため集会室を使っており、中身が汚れた本などいろいろと取り替えて、また次年度のセットを組むという仕組みになっている。学校での扱いはいろいろだと思う。学校図書館に置いたり各学年の教室に置いたり、その辺の運用については学校の方に任せている。小倉台図書館の青いコンテナについては3月で回収されて返って来ているので、バラしている最中である場所を使っていると思う。

〈委員〉 はい、分かりました。

- 〈議 長〉 関連で、中学校の0校が気になる。是非セットを作って回してもらいたいが、どうして0校なのか。
- 〈事務局〉 スクール便の参加については、各学校に参加の希望を取っている。先日、学校図書館連絡会に参加した時に、学校司書の方から中学校の図書室が結構綺麗になっている。新しい本が置かれていて、大体基本の図書も持っている。
セット物については図書館が選ぶので、どうしてもかぶるものが多いらしく、そうすると中学校でなかなかスクール便に手が伸びないということを意見としていただいた。その辺を中学校の方と違う形で何かの連携ができればいいと思う。0校になっているので色々考えるとところがあるが、学校がそのような様子を見ていて、この仕組みはもういらぬということになれば、違う連携をこれから考えていく必要があると思う。
- 〈委 員〉 分かりました。
- 〈議 長〉 スクール便がなくても、授業に応じた要求をされた場合は、本の貸出しをしているということですね。
- 〈事務局〉 はい。
- 〈議 長〉 ありがとうございます。他に何か。
- 〈委 員〉 市役所の方で他に何ヶ国語ぐらい、印西市で外国人に渡せる資料はあるのか。聞きたいのは今後、他の言語の案内を作る予定はあるのか。
- 〈事務局〉 今回やっと英語版を作成し、当面はこの英語版で外国語については対応していこうと思っている。
今後は必要に応じ、職員の外国語のスキルも当然あるので、このようなものを作るときには国際交流協会、そのようなところの活用も検討しながらと考えている。当面はこの英語版でいく。
- 〈委 員〉 印西市の外国人の人口増大、その辺は図書館で把握しているのか。

- 〈事務局〉 現時点での状況は把握していない。
- 〈委員〉 その辺が気になっている。市長は国際的な市にしたいということだが実際にどれくらいいるのか。よく見かけるけど、どれくらい外国人の方は増えているのかというのが気になっていたんで、質問した。
- 〈議長〉 他に何か事業関係について質問等はないか。
- 〈委員〉 先程コスモスパレットの利用状況を口頭でいただいたが、同時に、現在のふれあいセンターいんばの改修にあたり、休館中の臨時窓口の利用状況がもし分かるのであれば教えていただきたい。それも次回の資料に加えてもらえると良いと思う。
- 〈事務局〉 手元に1月末現在の印旛図書館の利用状況を持っていないので、次回、年度をまとめたものの中で報告をさせていただく。
- 〈議長〉 他に何か事業については。
- 〈委員〉 スクール便のことでお願いがある。
3月なので小倉台図書館に本が戻ってきて、バラして組み替えるということだったので、今回は少し新しめの本を増やして入れてもらえると良いかと思う。スクール便は低中高の学年で3箱送ってもらっているが、なかなか利用するのが難しい。私もここ何年か学校の図書館に関わっているけれど、除籍をやって新しめの本が入った。お話自体はきっと定番の良い話を選んでくれると思うのだが、少し背表紙に色味があるというか、焼けてない本が増えると、こどもも見やすいと思う。新しい本が来たなという感じになると思う。いろいろなバランス、読み物の入れるバランスであったり、小倉台図書館の出る分と残る分とのバランスが難しくなってしまうといけませんが、少し新しくなると嬉しい。
- 〈議長〉 新しめの、綺麗な本ということですね。出版は古くても良いけれど、とにかく新しい綺麗な本じゃないと、こどもたちはなかなか手が伸びないということですね。

〈委員〉 そうなんです。
それもあり一昨年、送ってもらっていたのに、あまり本が動かないという状況で、今年1回スクール便を止めてみた。来年また復活する予定なので、それで学校図書館の方の動き、学級文庫の方の動き、スクール便の動きなどを見ながらやってみようと思うので、検討をお願いします。

〈議長〉 学校に送った本というのはザラザラになったり、読み古してしまうので、昔、浦安の図書館では一度学校に出した本はもうほとんど廃棄だと言っていた。それくらい、きちんと替えてあげないと子どもたちは見ない。大変厳しいかもしれないけれど、新しい別の予算を取りながら用意してあげないと駄目なのかなと、聞いていて思った。せっかく運んでも使われないと何もならないので、ちょっと別枠できちんと予算を確保しながら回してあげれば良いのかと思う。逆に学校予算の方はどうなっているのか少し気になってくる。

中学校の方にはいらなと言われたということは、中学校の図書館は充実してきているのかというふうに推察しているが、なかなか視く機会がないので分からないけれども、そういうこともあり、なかなか厳しい意見なので反映していただけるとありがたい。他に事業関係のところは何かないか。この事業については承認いただいたということで、次に進めさせていただく。

(2) 令和8年度印西市立図書館運営方針(案)及び事業計画(案)

〈議長〉 (2) 令和8年度印西市立図書館運営方針(案)及び事業計画(案)をお願いしたい。

〈事務局〉 (令和8年度印西市立図書館運営方針(案)及び事業計画(案)について説明)

〈議長〉 購入費の伸びはなく、令和7年度と同じ予定だということですね。では、令和8年度の運営方針と事業計画(案)の報告がありました。これについて質疑を伺いたい。

- 〈委員〉 図書館長を公募した結果を聞きたい。決まったのであればどのような人が来るのか。今日はそれが気になって来た。
- 〈事務局〉 外部人材の図書館長を募集して、現在は内定ということで、2月27日付けで内定者に通知をしている。
現状についてはそこまでの答えになるが、経歴と概要については、自治体の大規模中規模小規模の図書館館長を経験しており、民間事業社に勤めている方である。令和8年4月1日からの採用になる。
- 〈委員〉 任期は。
- 〈事務局〉 任期については、1年更新で最長5年になる。任期付職員となる。
- 〈議長〉 皆さん一安心したと思う。サービス計画のもと6館もあり、利用者が大変多い図書館でもあるし、統括管理をしてくれると大変良いと思う。今聞いて一安心して、もう一つ。職員の採用について、今年度の状況を触りだけでも良いので知りたい。
- 〈事務局〉 現時点での状況として、2名採用の予定であると聞いている。
- 〈議長〉 3名募集していたけど、決まったのは2名ということですね。分かりました。
せっかくサービス計画を策定したにも関わらず、推進力というものはやはり優秀な職員の人たちが負うと思うので、是非新しい人を良く育てていき、サービス計画を推進していけると良いと思う。新しい館長にも大変期待したいと思う。館長の応募があつて良かったと私たちは安心した。
他に計画（案）のところでは何か。
- 〈委員〉 4月1日にいよいよ本埜図書館がオープンするので、とても楽しみにしている。リニューアルに対してのオープニングセレモニーを行う予定はあるのか。
- 〈事務局〉 工事は、本埜ファミリア館の保全改修工事ということで、その中

の図書館も含めての保全改修で、機能維持などをメインで行っている。工事自体の担当は市民部になり、それについてのセレモニーのようなことは現時点で聞いていないし、保全改修工事になるので、予定されないと考えている。

〈委員〉 数ヶ月休館になっていて、図書館だけではなくてファミリア館全部がオープンすることを楽しみにしている方もいると思うが、図書館独自としてオープンしましたということをする、図書館に足を運んでくれる人も増えるのではないかと。POPで飾るとか、オープンしたというアピールができる形が見られたら良いと思う。

〈議長〉 まだ間に合うので、少し職員達で相談してオープンしましたという何かを始めてもらえるといいですね。そういう声があったということをお伝えしていただきたい。

〈事務局〉 意見として伺う。

〈委員〉 私も本塾図書館がオープンできて嬉しいと思っている。印旛図書館はまだ1年間開館しないので、この1年印旛図書館の利用者に対するサービスは『おはなし会』以外に何か計画はあるのか。

〈事務局〉 印旛図書館については2ページの『夏のおはなし会』、そちら以外には特に予定をしているものはない。

〈委員〉 以前に提案した移動図書館みたいな形で、六合や平賀などのちょっと離れたところに市立図書館の存在アピールとか。私は、学校では『ほんのタネ！』を子どもたちに紹介して、市立図書館と子どもたちがつながるようにいろいろな試みをしているけれども、そういうふうにして1年に1回くらいのイベントをしてもらえると、子どもたちの目が市立図書館に向くのかなと考えているので、検討していただきたい。

〈議長〉 意見として何か受け止められるものがあつたらお願いしたい。

- 〈事務局〉 移動図書館については、計画の中には検討事項としてあるが、前々回だったかと思うが、やはり同じような意見を委員の方からいただいて、印西市は現状としては6館の図書館があり、地域それぞれの特性に応じて図書館を開いている。そういったところを活用していただき、今のところ移動図書館について積極的に検討ということは考えていない。
- 〈委員〉 定期的な移動図書館ではなくて、1年間印旛図書館に行けないので、公民館でも良いのでイベント的に1回くらいの場所を作ってもらい、市立図書館の企画で何かイベントをやってもらえると、子どもたちの目が実質図書館に向くのかなという意見です。
- 〈事務局〉 図書館の事業を公民館でやったらどうかということですか。
- 〈委員〉 『おはなし会』であるとか、新刊本の紹介であるとか、そういうイベント的なもの。いろいろあると思う、やり方としては。ただ、今のまま1年間、また市立図書館と縁が切れているような状況だとその目が向かなくなってしまうので、なんとか繋げたいと考えているので、何か良いアイデアがあれば。
- 〈事務局〉 予算がかからない中での対応について何が出来るか考える余地はあると思うので、そこは図書館の中で検討をしたいと思う。1年間休館になるが、印旛図書館については先程から説明しているとおり、臨時窓口を開設している。臨時窓口から市内の図書館の本を取り寄せて借りることが出来る仕組みになっているので、そちらをメインに何か出来ることがあるのか、考えてみたいと思う。
- 〈議長〉 ありがとうございます。
- 〈委員〉 2ページの講演会ですが、有賀忍氏を招いての講演会をやるということですが、具体的なことが現時点でわかっていたら教えてほしい。例えば、日時場所。それから、原画が素晴らしい。印西市がせっかく発行する絵本なので、原画も印西市の手元にあるわけだから、講演会に合わせて原画展も考えてはどうか。
- 〈事務局〉 今回の講演会について、まだ具体的なスケジュール等は決まって

いない。これから画家の有賀氏と調整をさせていただく。内容についても民話絵本検討会の方と明日会議を開催する予定で、その中で話をさせてもらい、有賀氏にこのような講演会をお願いしたいということを決めていこうと思っている。原画展については、予算要求を行ったが、警備費用等については難しかったので、文化ホールや小倉台図書館、またその講演会の当日など、そのようなところで原画の展示はどんどん進めていきたいと思っている。

〈委員〉 是非子どもたちだけではなく、市民の方にも原画を直に見られるという機会はそうそうないので、機会を作ってもらえたらありがたい。

〈議長〉 発表もあると思うので、できるだけ大きいホールで沢山の人が聞くことができる講演会になると良いと思う。

〈委員〉 7年度の事業報告の学校関係で印西中学校のPOPの展示があった。そうふけ図書館も最近小学生のPOPが飾られていて、そこに置いてある本が借りられていることもある。私も行く度に目を通すのが楽しくて、そういうものが各図書館で、小学生中学生が紹介する本、小倉台図書館に『私のおすすめの1冊』、あのコーナーもとても好きで結構本が借りられている状況が多くて、そういうのを各館で行ってもらえると本に対する興味も増えるのではないかと思う。是非少しの館だけではなくて、全館でやっていくと、他の図書館に足を運ぶ楽しみができると思うので、汲み取ってほしい。

〈議長〉 とてもPOPは良いと思うので、是非お願いしたい。

〈委員〉 次の年の計画の中に、POPコンクールがないように見える。やらないのか。

〈事務局〉 8年度どうするのか、現状ではまだはっきりと決まっていない。学校の先生も替わるので、4月に改めて、継続して行うか、もっと違う形になるのか、学校連携については考えていきたいので、今現状では載せられない。

〈委員〉

とても楽しそうに見えるので、現場の生徒が盛り上がっているのだったら、こういうものは是非取り組みとしてやっていったらどうか。良いことだと思う。

『おすすめの本』のコーナーも、私も良いと思っていて、何かお勧めした本とPOPコンクールを結びつけることはできないかと考えた。実際に勧めた本の投票があって、面白かった本を生徒が、私が宣伝してあげようみたいなPOPを作り、それを各図書館でコーナー展示をしていくようなことをすると、読書に関心のなかった人等の興味が集まるのではないかと思った。

去年も第3回のこの協議会で来年の計画をどうしますかとの話があった時に、皆さんから声が上がっていたのは、印西市ならではの話題性のあることをやりましょうということだった。今年は何だろうと思っていたけど、そのPOP-1グランプリというのはとても新しく楽しそうだと、おすすめのコーナーみたいなものを有機的に結びつけると、何かが出来るとのではないか。是非来年の企画を考える時は、そういう連携した企画力というか、話題になりそうなものの種を見つけて組み合わせることを、考えてもらいたいということと、それをどうやって発信するかということをもう少し考えてほしい。

Xをやり始めたのか、私は見たことがないが。市立図書館でアカウントを取っているのか。

〈事務局〉

Xについては印西市の公式アカウントの方で行っている。図書館だけではなくて、一般の人もホームページから見られる、そちらを活用している。

〈委員〉

良いことや新しいことをいくつもやっているのでもっと発信すれば良いのと思う。発信するようになると、もっとうまく見せるために企画し考えると思う。企画力と発信力は二つで一つだと思っているので、是非アカウントを取ってもっとバンバン他の図書館みたいに告知をすれば、もっともっと本を探しに図書館に足を向ける人、子どもたちもいるはずなので、是非そういうことを考えて来年はやっていただきたい。

〈議長〉

大変良い意見を、ありがとうございます。企画力と発信力を持たないといけないので、例えばブックコートをかける体験講座はだ

いぶ前からまだ必要なの？と、言われていると思うから止めても良い事業もあると思う。だけど、新しい時代に即した事業に取り組んでいかなければいけないから、そういう企画力と発信力を持ってもらいたいと思った。

〈委員〉 今のPOPの話だが、六合小のこどもたちが授業で作ったPOPを展示した。POPを作るというのは結構時間がかかって、しかも人に見てもらう作品にするにはそれなりの時間が必要になる。だから図書館の方で呼びかけたとしても、学校がそれをできる状況でないとなかなか難しいけれども、そういう意見があったことを、司書連絡会で話をさせていただく。私は本塾図書館が開くので、今度は本塾でやってもらおうかと思った。そうすると滝野小がすぐ近くの学校なので、滝野小と六合小で連携してPOPを作って展示するのも面白いかなと。

そうなってくると、やはり教員も指導方針とか、学校体制などにもかなり影響してくる。作ったPOPをこどもたちが嬉しそうに見ていたりとの話を伺って私もとても嬉しかった。そんなふうに学校間連携をしていけたら、もっと盛り上がると思う。

〈委員〉 いいですね。そうしたら、いろいろなところで取り上げられると思う。

〈委員〉 貴重な意見をありがとうございます。やりましょう。

〈委員〉 直接は関係ないが、移動図書館の話や学校の連携の話が出た中で、小学生は国語の教科書の中に、学校図書館の使い方、9はお話の本とか、2は地理歴史の本とか分類の話をし、そのうちに図書館に行ってみようという流れで、実際に図書館に行ってみようとなる。実際は借りないにしても、市立図書館の紹介をした時に図書館って何だろうな、見たことがないけどという地域があるのではないかと。行ってみると、教科書ではこうだけど、実際の図書館は全然違ったとか、こうなっていたとかの楽しみがあると良いと思う。印旛図書館は開館にあと1年あるので、この1年に図書館の情報なり、このようになりませとのお知らせや情報があると、こどもも楽しみが出来る。お知らせなり、スクリーンなり、何かで配信してもらえると良いと思う。紙で全員に配ると印刷も

大変だし、紙も沢山いるので、事前にこうなるというお知らせがその地区の学校に来ると紹介しやすいのかと思うので、検討してほしい。

〈議 長〉 はい、ありがとうございました。

〈委 員〉 中学校も中1の教科書にPOPを作ろうとか、帯を作ろうとかが教材として入っていて行ってきた。去年はPOPを作って、全員のPOPを廊下に掲示して良かった作品を学校図書館に置いてみたり、図書館につながる窓に貼ってみた。もしPOP-1コンクールみたいなものが印西市にあるのなら、毎年出さなければいけないとなると負担になるけれども、実施をすることを知らせてくれたら、例えばこんな作品を作りましたと、タブレットで写真を撮って送り、賞に入りました、現物があったら持ってきてくださいとか言われれば、喜んで持っていく気がするので、広く応募してくれると、読書感想文ではないけど、そっちよりもずっと面白そうだなと思った。

本離れはとてもあって授業で音読をさせるが、太宰治は長文で読むのが苦手である。前は少しつまって読むこどもが1人2人だったが、当てていくとみんなつまってしまう。本当はセリフのところで感情を持って読んでもらいたい。昔、芸能人が多く通っていた堀越学園では音読するだけで全部その本の内容が分かった。皆が涙を流すくらい感動したと聞いていて、そういうものを目指しているけれども、どんどん音読の力が下がっている。本当に読書してほしいと思っているので、広く広げてもらい募集をしてもらえるなら、参加したいと早速思った。

とても上手なこどもが沢山いるので、1年で参加して、2年3年と続けていけばより良いものが出来てくるし、本もいろいろ読んでみて新しいものに挑戦してみようかという気持ちになるかなと、今聞いて思った。

〈議 長〉 ありがとうございます。他に、どうぞ。

〈委 員〉 この事業計画（案）みたいなものについては、市民も年間通してこんなことを図書館はやっているとか、何月頃にこんな事業があるというのを、何かで情報発信しているのか。時期になるとこの

通信等に載るとは思うが、年間通してこの月にこんなことをやっていると思えば分かるものがあるのか。

〈事務局〉

図書館独自ではホームページなどに年間計画は出していないけれども、生涯学習課で作成している『生涯学習ガイド』で紹介をしている。毎年、各サークルの事業であったり、公民館の事業や図書館の事業の年間計画を出している。そちらは製本され、図書館にも置いているし、各施設にも置いてあると思う。市のホームページでも見るようになるようになっている。

〈議長〉

意見を聞いて私もハッとした。せっかく図書館のホームページがあるが、今年度の事業一覧や予算が図書館ホームページに公開されていなくて、私たちはこうやって知ることができるけど一般の方たちには来年の計画を見せたいと思うので、一覧表をホームページの中に載せてもいいと思った。そういうこともどんどん発信力という形で、取り入れていってもいいと思う。今の意見は一年の計画を知って、こういう事業があるのだったら、その時に出たいと思う方もいるだろうし、予算がどのようになっているかを知りたい人もいるだろうし、そういうのは図書館のホームページの中に入れていければいいと今思った。何か入れていける時があったらお願いしたい。

〈委員〉

小倉台図書館の臨時貸出窓口のことについて確認させてもらいたい。3月6日の文教福祉常任委員会を傍聴し、その時議員から臨時窓口を作るのかとの問いに、フレンドリープラザのカウンターを臨時の貸出窓口として考えているという回答があった。それは本当なのか確認したい。とてもありがたいと思っている。ニュータウン中央の北地区に、あれだけの規模の図書館なので設置してもらえるとありがたいと思っている。その際に個人の貸出の返却窓口だけではなくて、いろいろなどこで言わせていただいているが、木刈親子読書会の活動には、団体貸出というのが本当に命綱であるので、その窓口を団体貸出にも活用させていただきたい。是非願います。

それと、小倉台図書館がリニューアルするときの意見だが、小倉台図書館の児童コーナー、児童エリアがあるが、そこにせっかくカウンターがあるのに、今は展示がちょっとされているだけで地

味なので、カウンターに児童書や絵本の専門司書を配置して、訪れるお母さんたち、お子さんたちと絵本の話だったり、子育ての話だったりをするように活用できたら良いと思った。少し手薄なヤングアダルトのコーナーも、リニューアルを機にもし作ってもらえたら、中高生など利用者のすそ野が広がって良いのではないかと思い、ここで意見として言わせていただく。

〈事務局〉

臨時窓口については、現在フレンドリープラザの方で開設するというので、フレンドリープラザの運営委員会とは協議が整っている。あとはどの時期に始めるかだが、工事の予定が入札の関係上、当初の予定より3か月くらいズレてしまい公式な発表がなかなかできない状態である。現在もまだ工事の議決の承認は受けてないので、必ずここから始めるという約束ができない状態である。ただ、フレンドリープラザの臨時貸出窓口は、基本的にはコスモスパレットと同様な形のものを設置する予定をしている。団体貸出については、かなり狭い窓口なので、多数の図書の保管や個人情報情報等も入っているので、ダンボールやブックトラックにつみっばなしということはなかなか難しい状態である。

木刈親子読書会は結構な冊数の本を1回に借りられたりすることがある。市内の他の図書館との連携の本もかなり借りられるので、そういった関係で、窓口でその手続きをするには手狭であり、職員の配置も難しいところから、臨時窓口開設中は大森図書館である程度の事務を執らせていただきたい。今現在の計画について、臨時窓口については、準備期間もあり9月中旬くらいからの開設をし、その後工事の予定が今現在だと6月下旬くらいに工事が完了する予定である。

その後開館準備を2か月程行い、8月末まで開館準備をして9月から再開館と予定している。その2ヶ月間の準備期間については小倉台図書館のくつろぎコーナーに臨時窓口を移設し開館準備を行いたいと考えている。その時になれば、小倉台図書館の方でも団体貸出が可能であると思うが、場所の要件や本の輸送の要件などの問題もある。

フレンドリープラザは基本的に一般車両の駐車禁止になっている。図書館としての利用者の駐車は少し遠慮願いたいという話もあるので、団体貸出の部分では悩ましくなっている。いろいろな状況もあり、受け渡しだけであれば何か方法がないか模索してい

るところであるが、手続きや協議、申込みを大森図書館ですることが出来ないかと考えている。

〈委員〉 フレンドリープラザまで本を運んでもらうのが一番ありがたい。事務的なことは大森図書館で大丈夫と思う。

〈事務局〉 協議をさせてもらい進めさせていただきたい。他の団体貸出は、基本的には本を選んで貸出をするのがほとんどで、予約してということがない。木刈親子読書会だけが今そんな状態で、他の図書館だと別にあることは聞いているが、小倉台だとそのような状態である。

〈委員〉 検討よろしくをお願いします。

〈事務局〉 検討はしているところだが、どの方法が実際良いのかということは協議させていただきたい。

〈委員〉 はい、協議させていただきたいと思う。

〈委員〉 図書館システム機能向上や次期図書館システム導入準備が予定されているが、図書館が休館になったりホームページが利用できなかったり、そういうこともあり得るのか。

〈事務局〉 基本的に機能向上につきましては休館日に行うと聞いている。また、図書館を臨時休館して行うことは、今考えていない。システムの導入については、あくまで実技システムの導入で、予算要求のための仕様の確認となれば、今の図書館システムを動かしながら、別にやる作業となるので、特に休館はない。

〈議長〉 私の方から予算について特に資料費について、来年度はこのまま、横ばいということをつた。新しい館長を公募で迎えて、職員も今年度も昨年度も募集して市長が図書館は市民にとって大事だから市長部局に迎えてそこで運営したいという話もでて、結局それは今まで通り教育委員会となったが、図書館に随分光が当たったというふうに思っていた。図書館にとって一番大事なのは、もちろん職員も館長もだけど資料

費だと思っている。毎回会議で言ってきたのは一人当たりの平均購入費が印西市は県の平均値より随分低くて、でもここ何年かは館長の努力によって資料費が上がってきた。

今は県の平均値よりも上になっていると思うが、これだけ市長が市長部局に迎えてまでと言っていたのに、資料費が増えないというのは大変残念だと思った。来年は増えないかもしれないけれども、やっぱり増やす努力をしてほしい。資料費は図書館の生命線なので、是非増やす努力をお願いしたい。意見として言わせてもらおう。

令和8年度の運営方針と事業計画（案）については、これで良いか。次に第3の議事に行かせていただく。

(3) 印西市こども読書活動推進計画（第五次）の策定（案）について

〈議 長〉 (3) 印西市こども読書活動推進計画（第五次）の策定（案）について事務局より説明をお願いしたい。

〈事務局〉 (印西市こども読書活動推進計画（第五次）の策定（案）について説明)

〈議 長〉 こども読書活動推進計画の策定（案）について、皆さんから意見を伺いたい。

〈委 員〉 意見ではなくて質問だが、今まで生涯学習課が中心になって、これを策定していたかと思うが、来年度は図書館が中心になって進めるのか。

〈事務局〉 この後説明をさせてもらうが、市の組織改編があり、図書館課が来年度できる。図書館課の方で図書館に関しては全て所掌するという形になる。

〈議 長〉 これについて意見を伺いたい。

〈委 員〉 アンケートと書いてあった。市内のこどもにタブレットを使ってのアンケートをするのかと思っているけど、駅に大きいQRコードを貼ってもらい、こどもが答えられるようにできると良いと思っ

ている。市の図書館だけ、私立に通うこどもが使うとか、あと高校生は大体市外の高校に行く人が多いので、駅にアンケートをやってくださいね、QRコードはこれね、と、貼ってあると答えやすいと思うので、意見の一つとしてほしい。

〈委員〉

不読率の低減ということについて、受験生が図書館に行くチャンスと思っている。家庭だとどうしてもやれないけども、私も勉強する場として図書館に行くと、結構みんな一生懸命に勉強をしていて、分からないことは本を使ってということが今は携帯に変わりつつあるけれども、勉強をする集まる場として行くところがないので、小倉台図書館など勉強のできるコーナーがあったりする。受験生に図書館に行くことも進めてみようかと思っている。そういったところで、高校生など呼び込んでもらえるとありがたいと思う。

あとは先程言っていた、デジタル社会読書環境の整備ということで、1年で夏目漱石の『坊ちゃん』が教科書に入っていて、2年で太宰治が入って、3年で森鷗外が入っているけれども、森鷗外と太宰治は比較的文が短いので全部載っているが、夏目漱石は途中までしか載っていない。その続きをみんなに読ませたいと思った時に電子図書みたいなものを白井市では行っていて、各学校に回ってきた時は、可読のために授業中に2、3時間とって『坊ちゃん』の続きを読んでも良いし、夏目漱石の他の作品を読んでも良いし、他にも沢山あるから、他にも読んでみよう、読みを広げようという授業ができたので、そういったところで図書館が連携して読めるような環境があると、ちょっと本を取り出して読んでみるとか、そんなことができると思う。

来年からiPadになる。教員用の見本が来たが、最新になるので読んだ本に自分で書き込みをしてみることもできるのかなと思うと、夢が広がる。デジタル化にどんどん対応してもらえると、こどもたちが読書、活字離れが、治っていくのかと思う。

今本当に本を読まなくて、アニメになっていたりすると読んでみる。でも、活字で本を持っていても持っているだけで全部は読まない。

アニメで見たところをちょっと、活字で確認するという程度の読み方になっていて、それでは本の面白さが伝わらないと思うので是非お願いしたい。

- 〈議 長〉 現場の状況をありがとうございます。
- 〈委 員〉 以前に印西市子ども読書活動推進計画など会議の会議録を見せてくださいと言ったらそれはありませんということだった。今回新しく、計画の会議が始まる。庁舎内の会議だと思うので、一般の人が立ち入れないと思うが、是非傍聴できたら良いと思う。そして議事録も残して見られる状態にさせていただきたいと思う。お願いします。
- 〈議 長〉 今の意見は貴重な意見なので、よろしくお願ひしたい。
- 〈委 員〉 このアンケートは誰に対して行うのか。
- 〈事務局〉 こどもたちに向けて行う予定である。無作為で抽出した方にアンケートを出して集計していきたいと考えている。
- 〈委 員〉 このアンケートの中身自体をこの協議会で打診し意見や感想を言ってもらおうということか。
- 〈事務局〉 アンケートの（案）が出来たら、協議会の方にも意見をいただければと思っている。
- 〈委 員〉 アンケートの設問がとても大事だと思っている。何を聞くのか、どのように聞くのか、ここでみんなに意見を言ってもらう必要があるので、それが間に合うようなスケジュールにしたらどうか。でも、この図書館協議会で何をいつやるかということが明確になったのは素晴らしいことだと思っている。私がいた2年間ではなかったのが画期的だと思う。せっかくなので、アンケートの中身まで踏み込んでほしい。例えば、今印旛図書館がないので、私もいろいろな図書館へ毎週行っている。そうふけにもよく行く。そうふけ図書館にはこどもたちがとてもいる。ものすごい人数が溢れているので行き場がないのでは。少し思ったのが、自習室がないというか、申し込んで許可を取って、殺風景な部屋でしかない。あれでは誰も行かない。静かだから学者には良いのかもしれないけど、少しガヤガヤしていても友達とテーブルで一緒にいら

れる空間があれば良いと思って、どういうことがあれば図書館に行くか子どもたちが答えられるようなヒントをもらえるようなアンケートを是非考えていただきたい。

〈委員〉 基本方針の4番に、『子どもの視点に立った読書活動の推進』と書かれている。この中の「子どもの意見聴取の機会」とは、具体的にどのように子どもたちに加わってもらうのか。言い方を変えると実際中学生だとか、この委員に選出されたりするととてもやる気を出すのではないか。自分たちがどんなふうにしたいとか、主体的な参加というか、その辺りはどうなのか。

〈事務局〉 子どもたちの意見、考えについては、アンケートの方で収集したいと考えている。会議については、平日の昼間の時間になるので、子どもたちに出してもらうことはまず難しいことなので、アンケートを主体にこちらで子どもたちの意見を吸い上げて、こども読書活動推進計画を作成したいと考えている。

〈委員〉 アンケートとしては難しいでしょうが、やる気を持つ形で自分たちが印西市の図書館をどうしたいとかを言ってもらえると面白いのではないかと思う。意見として。

〈事務局〉 ご意見として伺います。

〈委員〉 インターネットで出来そうですね。

〈議長〉 ありがとうございます。次にどうぞ。

〈委員〉 不読率の低減というのが本当に一番疑われているのですが、子どもたちが本を読まなくなって音読ができなくなって文が書けなくなってというのが、ここ数年間は非常に大きな変化である。一つはコピペで済んでしまう資料作りみたいな、資料をあまり読まないで斜め読みをして、それをタブレットでプレゼンテーション用に作るとか、そのようにして読む機会、朝読の時間も減っている。学校も本当に肝を入れて指導していかないと読めない子どもになってしまうのを今実感してる。私も一つ、アンケートを本当に作るのか。作成は大変で、それを分析するのも大変で、この

スケジュールで大丈夫なのか。そのアンケートを反映させた計画を9月から作っていくのは、それは大変なことだろうというふうに思った。

〈委員〉

こちらのアンケートはこどもに向けてとあるが、実際問題、そのこどもが本に興味があるなしということに関しては、絶対的に親の読書経験量というものが多大に影響していると思う。このアンケートを実施するには、こどものみでは正直実行力としては弱いのではないかと思う。

大人がどうして図書館を利用しないのか、または読書に興味がないのか、むしろその図書館や本を読むことに興味のない大人に対してなぜ利用を考えたことがないのか、そういったアンケートの実施を並行して行わないと、こどもに対してアンケートを取ったところで、読書に関して興味を持っているこどもはそのこどもなりに意見はあると思う。ところが、読書経験が少ないこどもに関しては、「ない」、「知らない」、「わからない」というアンケート結果しか出てこないのではないかと考える。そのアンケートに関しては、こどもを持つ親世代に対して、なんとかアンケートに答えてもらうということが必要かと思う。

今回図書館に民間の方を採用して加わっていただくので、是非その方に意見をお願いしたい。民間ならではの、経営的に人間はどのようなことに興味があってどんな欲で動くか、お金の動きに関してシビアだと思う。結局アンケートに答える、答えない、というところに、メリットを感じないと人は動きにくいと思う。

実際印西市で、市民に向けてのアンケート調査が行われたときに、無作為で私のところにもアンケートが届いた。そのアンケートの回収率がどうなっているのか疑問に思っていて、実際日頃から平日も仕事に追われている大人がその書面で印西市に関するアンケートに答えるかという面倒、時間がない、別に印西市に別に興味ないと、おそらくアンケートの回答率はそこまで高くはなかったのではないかと思う。とにかく興味を持ってもらうこと、そのことに関してのとりかかりとして、民間の方が加わることで、どうしたらそういう興味を持って参加してもらえるかということに、意見をなるべくすくい上げた方が良いのではないかと考える。これを見て思ったことだが、こどものみではおそらくこの計画自体がそこまでうまく通るかという、かなり難しいように思う。

なので、私の今の意見に関してはこちらの資料に関して、ちゃぶ台をひっくり返すような意見になってしまうが、ここで意見として言わせてもらう。

〈議 長〉

アンケート調査についてはこどもの実態調査をする上で必ず必要なことだとは思っている。それが基礎となるので入れてもらったことは良かったと思うので、是非実行してほしいと思うし、回答率を上げるような工夫や、無作為抽出のほかにも館内で子どもたちに出会ったら聞き取り調査をするとか、いろいろな工夫ができると思うので、是非回答率を上げる工夫をしていただきたい。

私の方からもいくつか言わせていただく。前回の会議でこどもの読書活動の報告があったので、この協議会でも大変活発な意見が寄せられた。

その意見を教育委員会に報告してくれたのだろうか、現場に戻してくれたのかという疑問がある。今回この計画を作成するに当たって、庁内だけの職員で作ろうとしている。ここの委員だけでもこれだけ活発な意見が出ているのに、子文連や学校司書、外部の委員をどうして入れないのか。

外部のこと、現場のことを知らないで計画を策定するのは良くないと思う。今からでも良いので入れてもらえないか。現場の意見を是非取り入れて、ここだけでも意見が出ているので、協議会から一人出しても良いくらい策定部会の中に入れてもらいたいと思う。こどもの読書活動推進というのは地域、家庭、学校とか、社会全体でこどもの読書活動を支援していこうという、そういうスタンスがあるので、だからこそいろいろな人の意見を是非聞いて入れてもらいたいし、その点検評価進行管理を内部だけでやってしまうのか。

私たち協議会には示されたけど、意見がどうやって現場にフィードバックされるのかというのは見えて来ない。進行管理、点検評価というのを内部会議でやると言っているけれども、どうやって返っていくのか、どうやって改善されて進行管理をしていくのかが見えにくい。もう1つはこどもの読書活動推進という法律が良い法律で基礎となる法律なので、この冊子の設置要綱の前に必ず法律を入れてもらいたい。意見として述べさせていただいた。他に何か付け加えることはないか。事務局から意見や、言っておきたいことがあるか。

〈事務局〉

意見が出た外部の方を委員に入れて欲しいということだが、今出している形で策定に向けてやっていきたいと思う。こちらのスケジュールにもあるように、この計画の策定に当たっては当然図書館協議会にも議題として出す予定があるので、そちらで皆さんの意見を伺いたいと考えている。外部の委員を入れると謝礼も必要になってくる。予算には計上していないので、今回の策定に当たっては、この内部の会議で案を作って協議会にも（案）を出して意見をいただき、最終的に計画を作っていくという形を取りたいと考えている。理解していただきたい。

〈議長〉

6年も前から庁舎内の職員だけを委員としていたので、私はずっと外部の人をと、外部の人というのは子文連とか学校司書の方とか、私立保育園の方を入れてくれとずっと言っていたつもりなので、これからも汲んでほしいと思うことと、予算化する時間もあったのではないかと言いたい。策定することが目的ではなくて、こどもの読書活動のために子どもたちにどうやって本を読んでもらうかを進めていくことが目的なので、これだけの沢山の意見をどうやって現場に浸透させて改善していく進行管理をしてくれるのか、まだ疑問に残っていて、そこをこのところを大事にしてもらいたい。

タイトなスケジュールだと思うが、よろしく願いしたい。

全体を通して何か意見があったら承りたい。

〈委員〉

昨日、私たち子文連が印西市長とのグループ対話会で、いろいろ話をさせてもらった。任期中に私が感じたことで、公立図書館とは本当に学校連携が大事だということを感じて、そのことに結びつけての話だが、今印西市は教育のDX化にとっても力を入れている時期で、そういう時期だからこそ公立図書館が学校図書館や学校教育全体に関わることが大事なのだと思った。昨日その対話会に、教育DX専門の先生もいらして、先生の言葉がとても心に残っている。デジタル教育を進めていくというのは子どもたちの学び方をどう変えていくか、先生方の働き方をどう改革していくかということを進めていくのだと。

そして大事なのはどんな情報が正しいのかを見極める力であったり、その情報を活用していく力を同時に養っていかなければいけ

ない。そこが大事だと。見極めるには、沢山ある情報の中から正しく有効な情報を見極めるにはどうしたら良いかという時には一次情報に頼りなさいと。

一次情報というのは直接体験したこと、伝聞ではない自分が持っている情報であったり、図書館などの信頼できる情報である。そこに当たりなさいと言っていた。またその情報の発信元の裏にあるもの。例えば、いつ誰が誰に向かって発信しているのかということなども、掴んでいくことが大事だと。そういうことを学年の段階を踏んで学んでいくとの話になって、なんとなく自分が思っていたデジタル化というもの以上の奥深さというか、もっと深いところまで考えてくれているのだということがとても印象に残った。図書館という言葉が出てきたのにもハッとしたが、折しも図書館課ができるので、図書館課に例えば、学校連携専門の司書を配置してもっともっと学校教育をバックアップしていく体制が取れる時期なのではないか。期待できるのではないかと思った。

〈議 長〉

他に何か。

〈委 員〉

学校司書の勤務が来年度は1日増えて、2日だったのが3日来てくれるようになる。

〈議 長〉

学校司書は25人募集していましたよね。担当課が違うかもしれないけど、集まるといいですね。

集まって採用してもその後の研修や育成が大事なので、その辺もよろしくお願ひしたいということを担当課に言ってもらいたい。それが、こども読書活動の支援なのだと思う。他に何か。ではこれで終了させていただく。事務局にお返しする。

〈事務局〉

事務局から、報告があるが、その前に、議事の中で質問のあった外国人の人数について、印西市のホームページに令和3年3月に発行している『印西市国際化推進方針』があり、令和2年の状況であるが、外国人の人数が2,394人で、国ごとの人数は、一番多いのは中国で930人、次にベトナムで307人、韓国が258人、フィリピンが250人で、それ以外は2桁台となってい

る。それでは事務局から報告させていただく。

〈事務局〉 (令和8年度の図書館の体制について報告)

〈事務局〉 貴重な意見をありがとうございました。
以上をもちまして、令和7年度第4回印西市立図書館協議会を終了します。
今年度の会議については終了となり、令和8年度の会議は5回程度開催する予定であることを付け加えさせていただきます。
1年間お疲れ様でした。

令和7年度第4回印西市立図書館協議会の会議録は、事実と相違ないので、当協議会は、これを承認する。

令和8年4月23日

印西市立図書館協議会

委員 樋口紀子